


 小栗外傳
 七


へ 13
 3293
 7



門へ13
3293
7

寒燈
夜話

小栗外傳卷之七

東都 絳山歌醜陳人戲編

本大學出版部



第十一編之下章

不在活下再說照天姬と横山と逢ふ襲れ夫の行舟をさへ志す
危あうりほろを玉手甲斐しく敵と戦ひてこれに入れ城一人を
傳ひ何方とそれと亦方なく足まきして走る城と雄く死女子や
照天を海女所し我故々六浦の御ふはひたり。その此城を素直に
尋るふ武義國令澤なる待従川の辺に住漁師細六といふ人の女見
母を波浪といりし城を産む襁のうちに細六を没命する。波浪と女乃
一人世に生營なきまうふ。あらく飢り及ぬべうなりぬ。その其里に

小栗外傳卷之七

十一

毘沙法師のありは。これをも。後。源。と同。月。は。女子。な。ま。ら。け。り。う。き。度。て
 り。と。く。失。ま。れ。た。夫。婦。悲。嘆。し。洗。ま。れ。た。そ。の。血。属。を。れ。て。跡。め。て。ふ。と
 想。ひ。慰。め。よ。と。城。を。貫。き。つ。り。子。を。と。り。て。後。浪。を。子。故。ふ。身。の。か。ら。れ
 め。ま。う。お。も。と。い。と。悩。ま。り。し。毘。沙。法。師。母。女。の。已。が。身。を。と。め。と
 なる。乳。汁。の。こ。を。煮。ひ。か。れ。き。た。き。方。へ。乳。人。を。と。せ。ま。や。と。海。念。ふ。赴
 ち。此。南。阿。小。栗。助。を。守。り。て。その。乳。人。を。と。り。て。縁。ふ。う。り。と
 此。後。源。を。抱。り。て。お。も。と。城。を。毘。沙。法。師。母。女。に。か。り。く。成。人。と。し。て
 三。世。の。作。業。を。悪。く。り。え。祝。の。縁。を。汚。く。て。養。親。二。人。相。續。し。没。命
 け。し。六。城。の。ひ。と。り。海。士。舟。の。楫。を。断。つ。は。お。も。と。を。と。り。て。奇。ん。便。も。な。く。
 嘆。ま。う。と。い。と。泣。き。な。く。若。き。女。子。の。只。お。も。と。の。世。の。た。と。ま。し。ひ。の。り。が。く。
 危。や。せ。ん。角。や。と。想。ひ。ま。う。せ。ん。夏。海。藤。浪。と。小。栗。家。を。給。り。今。の。妻。と
 かり。よ。い。縁。も。風。声。ふ。せ。つ。れ。が。彼。亦。往。く。身。の。う。り。の。幸。な。れ。こ。と。は
 け。え。る。雨。の。入。れ。と。も。め。の。め。と。を。ま。る。故。を。な。ら。し。め。り。途。不
 ち。横。山。の。み。ふ。勾。引。き。れ。憂。川。竹。の。沈。む。ま。を。照。天。姫。の。情。に。因
 横。山。が。詩。の。文。を。よ。り。て。給。り。て。居。る。は。か。は。故。を。り。て。照。天。の
 危。難。を。助。け。故。郷。六。浦。を。伴。ひ。ま。つ。と。七。年。を。ほ。も。り。し。う。り。の。れ。が
 心。し。慰。ま。り。し。人。も。失。せ。り。使。る。き。方。も。あ。く。左。右。を。う。ら。日。の。や
 そ。う。ふ。た。れ。今。夜。を。何。方。も。め。れ。一。夜。を。お。し。明。日。こ。の。静。ろ。ふ。如。昔。を
 尋。ん。と。は。從。川。の。辺。に。徑。る。う。も。ま。じ。く。小。川。迎。い。ま。し。も。ら。る。白。玉。の。城
 此。已。の。あ。り。は。一。面。の。交。せ。演。七。と。ら。み。の。か。か。ら。れ。今。夜。の。い。ふ
 宿。を。か。く。ま。や。と。其。柴。折。戸。を。敲。け。か。も。と。回。應。て。四。十。小。金。の。女。紙。燭
 して。生。身。の。道。と。同。小。城。燈。籠。よ。と。し。る。う。よ。露。お。ほ。え。な。れ。女。の。ま。じ。が

かり。よ。い。縁。も。風。声。ふ。せ。つ。れ。が。彼。亦。往。く。身。の。う。り。の。幸。な。れ。こ。と。は
 け。え。る。雨。の。入。れ。と。も。め。の。め。と。を。ま。る。故。を。な。ら。し。め。り。途。不
 ち。横。山。の。み。ふ。勾。引。き。れ。憂。川。竹。の。沈。む。ま。を。照。天。姫。の。情。に。因
 横。山。が。詩。の。文。を。よ。り。て。給。り。て。居。る。は。か。は。故。を。り。て。照。天。の
 危。難。を。助。け。故。郷。六。浦。を。伴。ひ。ま。つ。と。七。年。を。ほ。も。り。し。う。り。の。れ。が
 心。し。慰。ま。り。し。人。も。失。せ。り。使。る。き。方。も。あ。く。左。右。を。う。ら。日。の。や
 そ。う。ふ。た。れ。今。夜。を。何。方。も。め。れ。一。夜。を。お。し。明。日。こ。の。静。ろ。ふ。如。昔。を
 尋。ん。と。は。從。川。の。辺。に。徑。る。う。も。ま。じ。く。小。川。迎。い。ま。し。も。ら。る。白。玉。の。城
 此。已。の。あ。り。は。一。面。の。交。せ。演。七。と。ら。み。の。か。か。ら。れ。今。夜。の。い。ふ
 宿。を。か。く。ま。や。と。其。柴。折。戸。を。敲。け。か。も。と。回。應。て。四。十。小。金。の。女。紙。燭
 して。生。身。の。道。と。同。小。城。燈。籠。よ。と。し。る。う。よ。露。お。ほ。え。な。れ。女。の。ま。じ。が

り一門差しはるかどあめ家いへのえおぼえあり。この家主しやうぬしのうりはる
ゆゑ今いまさきく化けの行ゆきへまゝのらに是非せひ宿やどりを借かりやとあふり濱七はなな
ぬいの家いへにゆかぬや。と平たいらねねが女おんなを濱七はななと申まをすに去い年とし没な命いのち
此家このいへ今いまの我われま小助せうすけと申まをすに住すまへる事ことと申まをすに城しろのまじひ
本もと屋やの雨漏あめりの化けの知し音ねを尋たずんと申まをすに又また濱七はななが
めづるが力ちからがまきこゆなり。且かつあまの四方あちちを申まをすに姫君ひめぎみ芳よしねの
不知あつしくふ宿やどりを借かりやと申まをすに相持あひま國くにより武藝ぶぎ國くにへ赴おもむき考かんがへて
めづるが伴ばんひしく後あとれ途みちを迷まよひ。さきまゆひのあつねは情なさけ小
今夜こゝろ火ひあつししてひてんやと慇懃いんぎんに頼たのむる。主ぬしの女おんな照天てんてん城しろあか
燈あかりをさるふ眉まゆ目め簾すだしく長なが衣きぬのまじひとけり。さきまゆひのあつねは情なさけ小
やがさきをわづらひ。そのゆゑにやゆゑの事ことふと申まをすに此地このち方はたの制せいとて

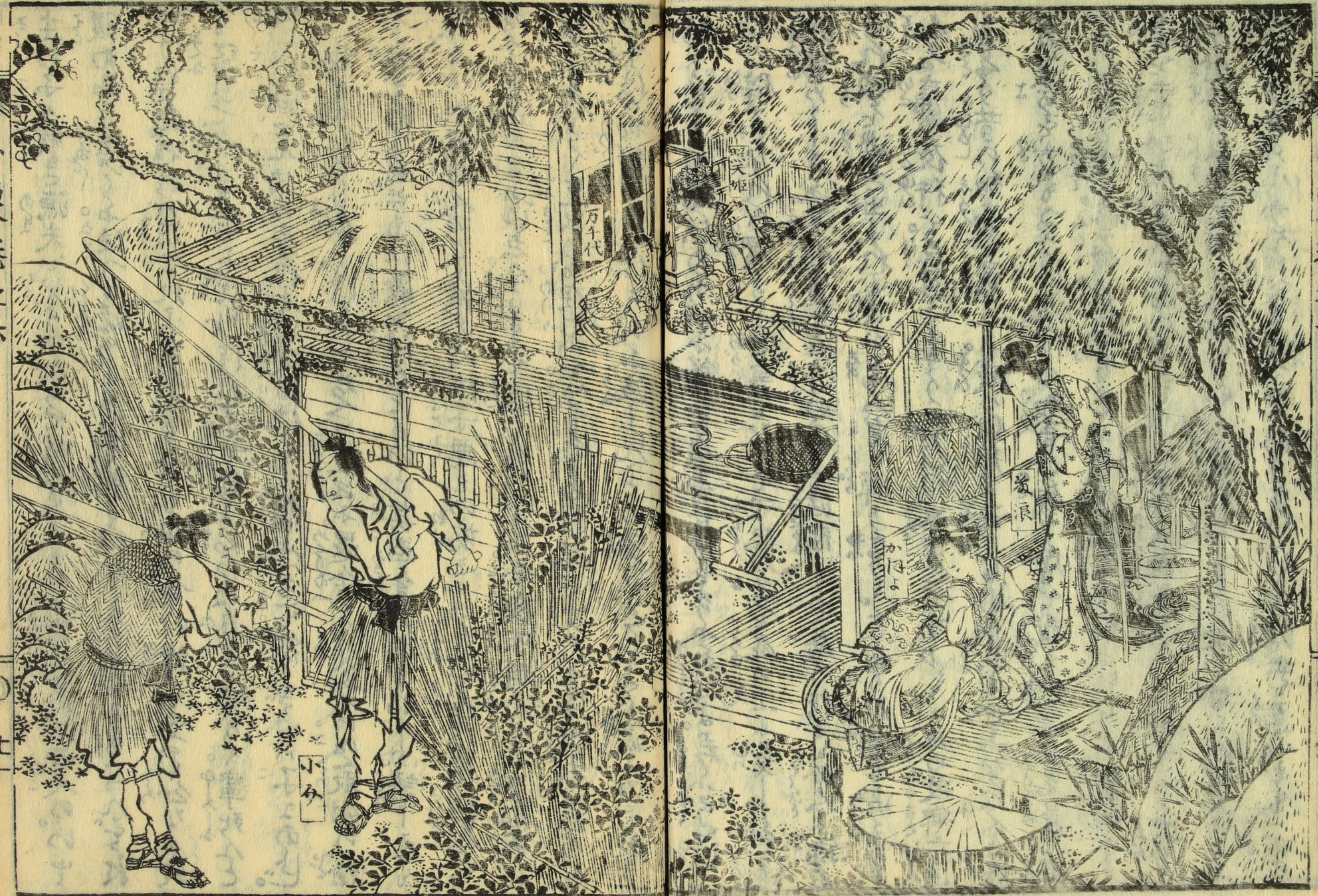
人ひとは宿借しゆくせとを禁いめり。且かつまも家いへ小居せういを後あとへかゞ。表うへにがくはれど
又またまわらざる由よしありける上うへ箱はこのあみも習なづぬ途みちを迷まよひ。さきま
惱なやましくもさるふ人ひとふすげ好このいひくま。さきまゆひのあつねは情なさけ小
心こゝろに忍しのびまわらぬ。蜜みつうい。めはあつね。後あと刺さ夫うの還かへる人ひとは
音ねせと忍しのびまわらぬ。且かつこの裡うちへ入いりせま人と申まをすに二人ふたりのまじひ
家いへのまじひ。主ぬし女おんなゆられと心こゝろをさる一室ひとむまの裡うちに清きよく物ものあど食くひ
さて中ちゆうに申まをす。さきまゆゑに旅たびの憂うれひのあつねを伴ばんひまふ人ひとと申まをすに
あつね。さきま惱なやましくもさるふ人ひと酒さけの愁うれひを拂はらふ玉たま帚しと申まをすに一杯ひとと
とめ。樽しやくをも時ときに且かつを勞らうも歌うた。まわらぬ。さきまゆゑに一瓢ひとの酒さけを
買かひ。まわらぬ。さきまゆゑに。その間まに奴家やつがが夫うの還かへる人ひとは
さるまじひ。さきま忍しのびまわらぬ。人ひとの頑がん。まわらぬ。さきまゆゑに。さきまゆゑに。さきまゆゑに。

出まなむとさうとがのち付るなりと忠告ら父へ小げぬの上討乃
 柳の陶と捉慌せけ申去り照天城の主女の忠信く歎付たまひ
 少く心安堵まはけ助重の行来いうゆと思ひ出され案がふきの
 うちあも照天姫のこころにのま入る涙はあづみひくく
 泣居るを嫉妬や申すいうは姫君殿の御心とぞ東なくおぼしては
 以嘆とさるることながら縁を知らぬとぞとく小栗判官代助重と
 中ては関八州のそのうち打物とて鬼神とくもあそるに方なり
 横山とまき敵對と蟻陣が奔りて車を止しるふ似たり。いづては矢の
 ぬきを強くおぼしめせ。この旅の宿なり。登り耳石のりのいふ世の中に
 みづりの言語の宣ひも明日の奴家お祝しらののを捜索くには身を
 忍びぬもき。おもも角もせんごるふ必と峠にくおぼしと。はあつとくと

心へ奈河とて弁かま胸を苦しむるなり。か後折々隔る
 紙門をさとしぬた立出るのありはあそ二人のあそやと結んであり
 かりてはとんれが年齢十二とぞおもひ男童子の端しかなが詳し
 と二人の前よ進み寄るをば久えり。今夜旅宿しあふとて
 いづかろ人と思ひふ目今物持志多を紙門を隔る必れが小栗助重
 公の内君あつはし爾まが父及びはる照天姫あておとさるや中喜多
 こも満重が乙子万代とてまあつを切雅とて兄らん別進まぬの
 とれがいと驚く想ふから。そのささぬの人うんせとてあせんとさ
 める。このにら出まぬなり。とまわつて照天より城を譲る母さの
 志づの伏をせし一人の身と存じと父もそれ貴人の身にしめれが
 遭ふも。みづいと想ひいとじくならじうのたふふ今夜不料も

此家より宿の借てきよ還きて此日以終りと想ふたらしめて還らん
 こそものめりしめて我もものめて喜びの涙袂をらるるやせり。照天姫の我夫の
 身と心と長びはる方お代はらら對ひ殿の平生は宣らせし。叔父の代
 ぬしらの名もあはれはしきまら。斯くも奴家こそ照天をてらるるより。不忠後の
 所は不忠對面するこそ嫉しけれ奴家こそふさはしひてすもつるるをさす
 の縁故のゆゑ。そのゆるやうもあはれはるるせんか。おぼろがら。叔父なり。の
 今へ干隔防るるも。漁夫の咎を忍びぬる。奉の始終をさす。縁と
 涙り同くはる千代とさす。いひ涙をぬぐひ想ひおぼろがら。情なや。去後
 應永三十年父上小栗満重と鎌倉殿の心不審うけ。心領多きまに。替
 居し。父の料のなれしを嘆れせと。一色う譚三郎のさへ。へられ。君の怒は
 まして自らまきを攻め。父上これと。後して。我一色と戦ふ。怒のわたり
 知くせま。く想ひのあつ。不鎌倉後。あせさ。せり。か。三。赴。よ。君。不。弓。と。引。ん
 こと。辟。と。な。れ。ん。潔。よ。く。自。害。を。り。て。不。忠。の。名。を。屍。の。上。に。負。し。と。て。遂
 生。害。を。り。し。ま。ら。其。付。童。子。の。弁。の。さ。ら。く。泣。悲。し。と。て。居。り。し。と。母。人。は。侍。也
 られ。城。を。逃。ぎ。出。せ。られ。と。世。を。忍。ぶ。身。は。憚。り。多。く。と。よ。よ。の。風。も。遠。く。と。て
 心を痛め夜行て。さかると。きり。忍びつ。幸じて。やうくと。母の故郷六浦
 まで。昔の知音と尋ね。た。或は。仇。邦。へ。去。り。も。あり。且。も。世。ふ。た。た。く。と。成。
 身と妻と方も。あり。し。し。後。の。知音。の。残。り。居。て。我。く。親。子。の。光。景。を。便
 なるめのと。憐。て。此。付。あ。ひ。居。ら。る。ら。世。家。の。小。女。と。い。ひ。し。一。人。襲。住。せ。り。
 妻と素心は。し。さ。い。お。の。こと。なり。と。母の。後。浪。童。子。を。ほ。れ。て。こ。も。嫁。り。
 母の。母。の。女。女。と。も。う。ふ。お。と。と。と。小。栗。の。乙。子。と。も。は。い。く。世。の。は。は。い。く。と。
 今よりして。心。か。を。父。と。思。ふ。と。の。り。な。れ。と。ら。う。は。浮。世。と。思。ふ。と。も。一。城。の

四つら
六浦の
漁村
お
おしき
母子
遇
ま



一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

川
泉
卷
之
六

小
舟

浪
子

万
千
代

照
天
姫

主の子が賤き漁夫を父とす。いふまで聞きとると。肯ぞわかれぬ人のい中
腹のちうまきふはつはつはつ。いひて聴かぬ。自害をも。口んぞわ
かうに。くえぬれ。正なれ。と。あかり人ども。母の命。れ。冷と。く。公なり。虎
も。強ひて。今日。ま。て。ふ。及。び。け。れ。と。を。命。を。あ。ら。ぬ。日。と。て。も。な。く。寧。死。を。と。
幾。許。回。え。再。の。と。れ。と。亡。父。の。仇。と。一。想。の。一。色。を。怨。む。が。子。の。あ。じ。
と。我。と。心。を。ぞ。り。申。は。く。く。あ。が。兄。の。お。還。命。を。父。の。人。の。家。取。の。経。
を。告。ま。す。あ。れ。せ。も。に。敵。を。討。ん。ぞ。の。と。其。志。を。の。の。り。好。が。語。り。を。も。
策。ま。し。や。我。母。人。の。く。後。を。人。徒。子。悪。の。妬。の。り。兄。を。尋。す。の。旅。登。を。
あ。う。り。止。め。の。ふ。い。志。今。日。ま。て。過。し。の。い。い。お。今。夜。不。料。人。の。お。還。命。を。
娘。の。と。れ。と。く。兄。の。在。家。を。覚。す。と。も。い。ひ。秘。と。せ。え。る。は。照。天。の。む。め。を。
万。千。代。の。物。語。を。も。を。夢。う。ち。お。泣。け。た。の。妻。け。と。と。を。涙。の。の。の。ま。き

くれ。が。や。を。ら。涙。と。も。い。ぬ。が。判。官。代。助。ま。が。持。院。堂。村。よ。来。は。る。を。初。め。に。し。
鬼。研。の。一。件。毒。酒。の。危。難。且。前。刻。お。追。ま。お。遭。ひ。散。る。の。り。夫。の。行。衆。を。あ。
さ。あ。ま。と。と。涙。を。う。ぐ。に。語。り。ぬ。れ。の。万。千。代。を。覚。え。赴。き。年。に。あ。り。た。
助。命。を。と。え。と。お。せ。ん。と。い。ひ。ま。や。行。衆。を。ぬ。れ。と。い。へ。と。い。の。こ。れ。も。い。ふ。と。
忙。然。と。り。其。時。城。を。と。と。み。出。し。の。和。子。き。み。前。刺。より。各。告。り。ま。ん。
と。い。ひ。の。い。は。れ。と。姫。君。の。物。語。の。あ。ら。妨。な。れ。が。さ。い。む。久。く。ぞ。り。し。が。和。子。
と。奴。家。を。潰。こ。ま。う。れ。ま。う。る。う。な。れ。兄。君。と。あ。知。る。や。あ。ら。は。や。奴。が。
身。を。這。殺。す。の。と。お。り。と。有。枝。方。命。を。あ。ら。も。好。く。詳。し。語。り。ま。す。と。い。ふ。
万。千。代。の。物。語。を。も。を。夢。う。ち。お。泣。け。た。の。妻。け。と。と。を。涙。の。の。の。ま。き
の。娘。の。よ。と。互。に。手。を。と。り。う。し。喜。び。涙。を。啜。咽。り。万。千。代。を。泣。
目。を。と。り。と。い。ひ。娘。と。い。ひ。兄。婦。と。い。ひ。不。図。遭。ふ。と。い。ひ。な。れ。と。年。二。日。以

念じしふ見小入来せざるこそいしと之却も味きは。あな哀しやと嘆々ほ。
 照天姫も我まの去向いふもとせし物。ほこも涙おふし沈む城に二人が根
 を。ここそとせし共涙袖やいぬぬるり形り。あな波浪と先年多氣
 落滅の折より万千代を伴ひ此地方小忍事なり。小介がりと人嫁まきけり。
 然るに今夜不意眉目好小女の二人来つ宿と借らんとしあをこしく俄小
 欲心を發し彼を賣てよれ價を得んものと酒買事んと候りて同里
 には國戸小常陸といふりありわたりは彼がりと人往りて商議候て還
 りし知し三人一所は集令ひ物結りさるるを垣間えりていふに
 不審は。常陸を物陰小忍がりおれおのれ一人密中お忍び入て紙門
 の外を潜りて立入るれば。一人と照天一人と娥めて万千代と名告違ひ。
 助まがごとを語り出互小嘆れ居るるれば。うち驚りて我子の城を襲と
 殆裡小入んとせし欲心尚中まどして胸に一物を巧まし。をまらぬさま

あゝ噴嚏。目今還り事あるまぢめて。さし紙門をおしむけど。
 三人の聲ひきこれを入るお波浪めてありければ。おんかきと下。あとの
 老景を伴ふ入へ知るるも波浪の候りてまじは色紙形。三人は打
 ひひきりりりり。今我の身のうへに鎌倉屋と俵とままと頼む小介
 あな小栗の人と云ことをほみえられた。今もあれ夫の還り事ま
 さん付く斯く居るをえん怪もあらねん。必定なり。よりて姫君を
 我知識方お忍びがりさん其を伴ふ人しと忠告してゆえまされ。
 城をこれに敷く。父万千代の言はることもあつらひに目今母れと結
 の未。何となく心許なく。奴家もどもに伴がり。あんとあれは波浪こそと
 なりかじと落るるが。さしく候りまぢくと口涙嘆けの波浪も詮かこ

形くて大息を衝き、何とぞもてなむとぞ。げまきせんも心はし、爾らぶらぶ
彼亦往く、頼り人ぞ、おれやぶら、暫時もちま人と、再び対の方お出候。成
城も尚ら、後安堵候が、蜜もとの殿へは、はしく、密にお出居の方お
物も、忍び、中一人の漢子、松語を耳をせ、とて、立聴、照天を賣入
との高深なれば、大まお尋ね、は後と母の心を、うち、漢子の、ゆる、候て
母を、結め、つれを、お浪怒腹、とて、云、汝知らば、や、助き、を、これと、仇め、て
照天、その妻、より、より、て、彼を、賣、て、よ、れ、價、を、とり、汝亦、を、と、栄利、を、と
ぞ、く、あ、つ、つ、の、足、良、斗、お、め、く、と、や、親の、公子、志、ぶ、ば、と、世、流、の、宣、め、り、し、
親の、意、悲、心、を、弁、へ、よ、と、い、ま、ま、く、め、く、云、懲、り、漏、ら、め、ら、う、も、さ、な、れ、
城、跡、を、容、れ、れ、ざ、れ、を、悲、し、心、裡、は、謀、を、り、け、ら、ら、笑、く、か、と、中、う、
さ、だ、り、我、を、お、ぼ、と、い、う、で、城、し、と、ら、ざ、ら、ん、や、は、意、電、の、辱、か、ま、お

父、下、に、この、の、り。今、姫、を、賣、め、め、も、我、く、母子、一、牛、を、送、る、と、見、宝、を、お、
母、の、知、し、め、と、は、は、姫、の、肌、お、は、け、め、お、守、め、同、浮、檀、金、の、記、言、汝、如、意、
宝、珠、の、厨、子、お、入、目、を、お、め、り、これ、の、千、金、も、お、は、跡、き、宝、を、お、は、は、尚、此、
外、は、莫、令、白、銀、の、宝、多、く、の、り、今、僅、な、れ、今、を、お、人、と、姫、を、賣、め、め、其、
宝、人、の、物、と、なり、お、ん、不、如、心、を、な、ら、じ、欺、ひ、く、其、宝、を、と、り、め、ら、う、我、得、の、
利、を、と、ら、ん、と、欺、き、け、れ、ば、者、浪、素、より、欲、心、深、き、め、の、な、れ、お、編、う、ら、は、と、知、
ら、ば、て、い、と、表、び、て、誣、ひ、ら、う、これ、其、内、お、め、今、宵、姫、を、殺、し、せ、宝、を、奪、え、ん
と、念、ト、ス、斯、て、夜、も、更、困、め、れ、お、照、天、を、も、城、を、も、寐、さ、し、た、れ、と、宝、を、奪、
つ、心、め、れ、お、照、天、と、城、と、お、卧、面、を、隔、く、寐、さ、し、た、れ、万、お、代、の、母、の、志、氣、誣、
け、し、お、城、と、議、室、お、姫、と、已、と、り、卧、所、を、か、く、睡、襖、被、り、て、寐、あ、ら、う、照、天、姫、を
者、浪、が、心、鬼、く、し、れ、を、知、ら、ば、偽、り、て、よ、く、疑、行、を、お、ひ、危、ら、き、と、逃、れ、易、に、大

ぼろりと公安塔るほどおぼろよりの心そ〜お身さ入勞れぬれど既小睡りんと
 ころりたさう中々なは声して悔起りのあり誰うう〜んと眼涙おろき
 着る小娘あてのけしうはこゝろゆるり〜と回つて城声を低〜つらうに
 中との恥がま〜た〜ら〜がら我母夜渡の公さままはな〜て豫〜助さ〜と
 と其間お〜と姫君その配遇の方おは〜せ〜腹悪〜お〜とひ
 失ひまわ〜せんとのおを奴家ま〜誂めは〜とら〜聴り〜人〜き〜神も〜人
 孫が〜才の〜いと危〜早〜此西をま〜去〜と〜し〜ま〜ら〜姫〜と〜ま〜
 奴家〜命の〜惜〜と〜父の仇を付ん才の〜み〜る〜死〜ん〜不孝〜と〜お〜ん〜の
 教〜ま〜ら〜せ〜脱〜つ〜た〜げ〜の脱〜ま〜んと伏〜西を〜狩〜び〜出〜る〜が〜い〜づ〜ら〜ら〜は〜ひ〜ま〜ん
 ち〜や〜と〜く〜と〜急〜ぐ〜と〜中〜娘の衣裳をま〜め〜め〜と守本〜と〜首〜お〜を〜裏〜戸
 の方より逃〜道〜出〜る〜り斯〜とも知〜る〜と夜浪を照天を殺〜財宝を奪〜お〜んと

想おろ〜静〜け〜を〜付〜と〜ころ〜お〜を〜寺の鐘か〜り〜と音の〜め〜指〜次〜個
 めて教〜つ〜ま〜既〜よ〜夜〜ま〜お〜と〜り〜よ〜け〜耐〜分〜は〜し〜と〜は〜只〜一〜照天が臥〜お
 忍び〜入〜る〜扇風の外〜あ〜て〜寝〜つ〜も〜熟〜睡〜あ〜と〜お〜ほ〜〜と〜れ〜が〜試〜し〜煙火〜と〜ら〜ち
 消〜の〜尚〜音も〜形〜は〜と〜あ〜〜と〜と〜完〜示〜と〜し〜隕〜〜と〜体〜は〜首〜次〜ぬ〜え〜つ〜
 扇風〜と〜か〜り〜除〜け〜睡〜襖の〜う〜ふ〜ま〜か〜ら〜と〜拳も〜馳〜と〜突〜ま〜れ〜が〜嗚〜呼
 と叫ぶが〜声〜と
 た〜と
 して〜の〜何〜ぞ〜料〜ん〜我子万千代〜朱〜と〜流〜〜と〜息〜移〜さ〜ら〜り〜お〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 夜浪〜が〜お〜氣の〜こ〜と
 泣〜し〜ま〜と
 泣〜し〜外〜の〜ゆ〜め〜さ〜は〜斯〜は〜後〜〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 泣〜し〜外〜の〜ゆ〜め〜さ〜は〜斯〜は〜後〜〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

角とぞうぶら小我子比列ね。邪の怒れ心火奔勃。拳を振り齒切也。
 かは僕とをるる。必竟照天か。做業なり。おく。悪き女。おし。や我子
 の仇敵。付て怨と暗さんと。立わたり。つ。声をおげ。や。嬖。く。に。る。あり。出。會。と。
 高。中。り。も。鳴。り。れ。と。ま。り。よ。回。意。の。め。ら。ね。ら。さ。く。い。く。も。と。備。り。り。く。
 娥と。赤。き。せ。し。外。少。は。往。裡。の。光。景。然。ん。く。の。は。お。ゆ。も。う。ん。空。輝。の。
 月。の。の。睡。襖。の。ま。も。し。主。ハ。影。さ。ら。も。お。縁。が。再。び。お。ど。ろ。く。な。ら。み。が。
 不。思。織。こ。ち。り。ひ。願。望。せ。ば。裏。戸。ら。ち。ひ。ひ。れ。そ。と。よ。り。し。て。人。の。出。る。さ。は。
 な。れ。ば。さ。て。ら。子。供。を。我。湯。を。照。天。よ。知。し。此。所。より。伴。ひ。歸。一。ぬ。へ。し。
 親。ハ。子。の。名。を。お。り。ひ。お。り。し。心。を。さ。せ。ども。子。ハ。其。事。を。弁。へ。賢。立。
 きて。母。親。を。欺。死。ぬ。る。こ。そ。思。ひ。足。彼。お。り。ひ。め。づ。せ。照。天。よ。迷。眼。跡。
 ませり。彼。も。走。り。ま。さ。も。遠。く。ハ。は。そ。も。逃。は。し。い。ぎ。逐。急。と。こ。が。子。の
 仇。を。剛。り。あ。と。走。り。出。ん。と。ま。る。折。る。船。楫。を。か。び。て。主。の。小。女。夜。細。の。還。ふ
 間。か。く。も。門。辺。を。さ。と。行。遭。ね。主。河。り。と。や。の。妻。よ。お。も。更。ぬ。う。か。し。く。
 知。ら。し。何。方。へ。と。行。す。ふ。あ。ま。お。ほ。と。同。が。れ。が。は。と。回。意。も。長。月。の。
 ち。ろ。と。踏。ま。さ。と。ま。さ。と。め。な。く。兩。雲。も。ち。あ。月。影。の。暗。れ。ま。ま。ま。れ。波。浪。を。
 照。天。の。跡。を。追。ひ。行。き。り。そ。も。く。此。小。助。と。い。う。を。これ。後。若。小。女。お。し。く。
 照。天。姫。の。行。止。を。尋。ん。と。兄。美。登。小。四。郎。と。も。に。所。く。を。捜。索。る。ふ。相。模。の
 國。ハ。居。る。より。穴。穿。と。何。處。の。知。とも。知。く。縁。が。此。地。方。ハ。僅。の。知。音。の。ね。が。
 姫。を。捜。索。ふ。便。の。と。ん。と。兄。身。こ。も。居。を。卜。て。小。四。郎。と。國。戸。と。な。り。
 常。陸。と。夫。名。一。ぞ。ら。女。子。を。買。と。る。と。ま。と。これ。照。天。姫。ハ。一。勾。引。し。
 多。う。ん。と。ち。あ。て。り。り。小。女。の。漁。師。と。り。り。護。倉。邊。と。り。り。也。排。細。一。姫。乃
 在。家。を。の。と。め。は。然。る。ふ。小。女。の。その。郷。人。の。水。人。に。因。り。波。浪。万。千。代

小栗判官

二七

ともあふらば。これと妻と迎々ねと。同話歌題照天姫の娥ととも脱れ
 出何まよとそれとささめ。縁ど毒婦の髪と脱とんと足おまじく走り
 あり。照天を素より。深窓も養ひまね。るるなれば。あふれ風をも厭ひし
 身の。今日望のやど。横山の。詔を脱と出より。追人の。為に。惱まされ夫成
 さんえ失ひ泣き。ききうら。吟呻つ。やうく。宿を。求好て。あし。心と。安んじ。お
 安達。が。系。の。黒塚。あふ。縁。ど。あふ。鬼。く。れ。主。の。姥。悪。公。お。と。と。て
 又も。思。び。出。あ。み。も。な。ら。ぬ。道。楽。の。と。と。え。れ。風。の。心。お。く。露。の。の。の。ら。ん
 あ。ぐ。く。て。夫。よ。還。命。て。后。父。の。仇。は。横。山。を。付。く。本。意。を。遂。ん。と。と。や。ひ
 か。く。心。を。勵。し。平。方。さ。と。落。て。の。頃。の。九。月。廿。日。あ。ま。り。更。の。夜。ま。の
 空。を。み。吹。く。風。の。身。ゆ。涼。く。足。さ。人。織。沙。の。踏。枝。歩。と。惱。ま。て。休。ら。ん。は
 響。う。波。の。と。さ。ま。ま。く。我。と。追。ひ。ま。る。尾。撃。く。う。と。胸。う。ち。鐘。の。氣。騰。く

とある松の木下に身を潜めて窺つた。蜘蛛とさほ松風の。それうらなぬ。娥
 のふ照天よのふと。呼と正しく。波浪の。声とおひ。おそ。う。く。消。も。う。せ。と。死
 む。り。あ。て。身。を。後。さ。ん。と。と。ね。あ。ま。と。や。り。も。波。浪。を。ま。り。照。天。を。目。が。け。追
 め。ぐ。り。既。に。捉。へ。ら。れ。ぬ。ぐ。う。く。う。く。は。時。は。不。思。議。や。照。天。の。身。より。一。條
 の。光。赫。と。閃。き。出。波。浪。眼。眩。と。近。寄。り。ほ。ど。こ。の。怪。し。や。と。悔。り。は。我
 と。あ。ま。り。し。て。心。が。ほ。ど。と。と。ひ。ふ。さ。さ。る。変。化。の。あ。の。な。れ。う。は。く。う。く。と。く
 近。備。院。の。ほ。村。玉。澤。前。と。い。ひ。は。妖。婦。の。よ。り。光。を。放。ら。と。く。の。海。も。平。々
 野。子。の。化。と。細。う。と。あ。て。あ。ん。ど。ら。ん。我。欺。う。れ。そ。万。あ。代。を。殺。し。今。又。娥。の
 春。あ。れ。う。り。想。入。の。さ。も。る。恨。め。り。い。う。も。魔。術。を。行。つ。と。も。あ。り。脱。し。あ。う。ん
 照。天。姫。お。花。か。く。し。襟。が。み。と。と。人。川。居。の。懐。で。涌。備。の。短。刀。の。鞘。の。ま。よ
 ち。て。は。け。さ。ぬ。撃。手。居。ら。れ。て。照。天。姫。阿。と。一。声。叫。び。う。が。その。ま。ま。其。所。か

終入り。城の周章慌忙ておのが身をとりて姫と無復ひ。この情はしと止る。
 友浪息ち身を伸し。まゝ打下と短刀の鞘抜散く思ひ。まゝ肩先
 どがと斬る。切られ。阿と叫び伏せ。わらと驚く。友浪が慌忙く抱お。し
 膝よかきの一声らうみ。さらさらぞ免してよ。心とた。うみ。このは
 も邪えの友浪も子故の暗い氣もくわて。まゝ泣いて。生せ。城を
 中うく心はき。いとあり。母の眼を用いた恨め。げふ母が熱。うみ。て涙を
 流し。苦し息をあら。と衝嗚呼。は。ま。母人。おん。の心。う。よ。世
 例。が。息。愛。る。の。お。え。ま。ふ。こ。こ。そ。方。え。け。お。ん。の。為。も。奴。家。も。
 照天姫と主なるは。天お。ま。ま。も。責。能。利。を。貪。り。ん。と。ま。ま。う。か。
 ま。く。諺。め。す。な。じ。と。れ。と。重。入。な。れ。は。経。方。そ。の。急。迫。一。危。難。と。脱。く。ん。く。
 心。め。め。の。程。も。姫。君。室。を。お。も。か。と。欺。き。わ。れ。が。欺。れ。愛。は。さ。ん。と。さ。る。
 こ。この。思。ひ。止。り。ま。い。も。尚。公。座。の。そ。ろ。れ。袖。の。方。十。代。九。と。示。し。合。せ。
 姫と周章を換さ。して。こ。は。で。逃。れ。ま。は。る。処。は。此。は。合。か。及。ぶ。こ。と。親。父
 欺く天罰。う。え。ん。悪。の。報。ひ。は。お。ろ。ろ。を。ま。も。ま。は。る。の。な。れ。は。是。や
 前車の戒。なり。母上。悪。心。あ。ま。ま。の。ひ。奴。家。よ。か。つ。て。姫。君。を。真。愛。極。多。ひ
 ま。ま。の。助。重。君。の。手。渡。し。方。十。代。九。や。奴。家。あ。ま。ま。を。語。り。ま。う。は。牙。の。罪
 免れ。ま。あ。の。こ。お。ろ。と。仁。を。受。ま。ひ。老。樂。の。牙。と。な。り。ま。あ。ん。の。道。行。を
 聴。り。終。く。や。よ。母。上。と。諫。め。れ。ば。友。浪。い。と。腹。さ。の。ま。を。取。り。し。と。
 ける。奴。家。が。姫。を。悪。む。と。お。ろ。と。ま。ま。の。故。ぞ。し。そ。も。く。姫。を。人。間。あ。て。ん
 よ。め。あ。じ。と。い。う。も。な。れ。は。目。今。お。ん。も。こ。ん。は。さ。と。く。其。身。よ。り。ま。光
 と。放。つ。と。い。ひ。且。の。教。を。せ。の。受。難。く。ま。ふ。似。け。ま。れ。心。の。鬼。く。と。況。在。夫
 の。身。と。お。の。が。命。に。か。う。し。て。露。嘆。く。ま。な。ら。い。と。人。の。心。め。あ。ん。や。

小栗判官

一〇九

正しく野狐の變化して小栗の家を亡くし人爾も仇めてあらばやハ
 そを希く母とのみむぐとてとらふや嗚呼愚か我子にぞく
 姫の正勝を頭へんせんと立かばと城泣くおらぬ奴家がしを安ん
 今宜のせし言語は夫の身をおのぐ身代らりきりとなへてあやり
 万代丸のりなりやせしとて同たれば波浪を念の涙は咽び語り
 生ても腹らし我姫の身ははきし宝と奪ひえんとし卧下思ひ入り
 甲夜は寐させし所は万代丸は床はしり我子のらちもひをばの
 黒夜もあやも弁う経て我子なりとんきあつども白刃をりて睡襖被
 三刀四刀刺せられ煙をかびてつてあはふあやあはね我子の万代
 朱は流れて息絶りこれや経るま嘆しつとその甲斐さらぬなりとも
 万代丸が卧下をえねば人影なきと脊戸は知りけ逃せぬとねるが

我子の仇の照天姫逃しつたせじとその跡を慕つて此下をてあつらふ
 間なく姫は行遭られぬをせしめ前後を弁と撃つてを念はせんと
 邪はけるふ魔術をて不図我子小重傷を負ひけり嘆とてんてん
 足渾照天が来る事しかりがなる仇敵おひあはしてんをさきこと
 眞意の煩髪胸を灼し再び照天を呵責せんと身かええられ城は泣く
 ちりちりさして万代丸もあんなのちを殺しあつ嗚呼
 あははしや主君を弑しちらんといひまうけ悪逆の天罰をかく殺ひ
 事もいふるを二人もて現在我子とてあはけて憂とてんがら懲り
 せし尚悪心を暮らして天魔が心入りかり大逆無道を志すゆかり
 遺世いらは因果あつ親子とらかりは七親の倣しこれ罪処す
 子の身はあはとあつらふとて生べぬ命あつ後ばこのまゝ死



女息より死にさすや苦難を受ぬべし。その厭むと母人の今のお返しを
 改めたる天壽らうて脱れりん終る又の錯とかり非命の死おやかり
 ありん。幸ぬよ存命とも世も疎まらう方の果に老さるおじてあかた
 那く人の門辺も食を乞ひ飢餓も苦しみ道路の草やあり露も消しやうん
 死しての后とも空同小蓬永く浮む漱めりうこれや芙蓉露の障り万千代
 丸や奴家か身と不便ともほきんたれくも心も空れよ翻し姫君こそけ
 まし係と重傷の苦痛と忠孝のこもよ心を動して泣くははらひと泣けり
 徒氣も又憐なり。當時降る村雨の影もさうして照天姫息吹に
 眼をむくた。こもさる城も重傷の苦痛のふ悲やとさうとさうと心も故
 此も傷今さうとむくお別して此身と心とさうとさうと心もたうはして
 たべと嘆けら娘の今らんや最期も近き大乙時の苦しめ息の下よりして
 のふらうししの姫君や一言父へすかたせと。想ひしとさうとさうとあま
 晩節時のさしひらり。奴家かかは身とさうとさうとと浅猿や母人の姫君
 討人と志もあまをさゆるとこの此身傷ととも助けりのらもあつた。この身
 まうおくならして后は主婦は代も出まらん其討奴家や万千代丸のふ成
 おはし出まら。悪くさうと兄身の名も母あてさるも命をうり助け
 めん此こそ頼もまらねが今世も想ひおくとほし。さらけりあら今一回主君
 や親の親をせと。んまほは。さる人もや眼をさるぬかきやま。
 若しうの母上よ。とどりの姫君やとらさるものとも未枯なかりの秋の
 草のさあめお白露とりらとも消てさうおくならら。夜浪照天りう
 ともに前後もさるも嘆はる。おはしなげまきのそのの中も姫を娥が死に纏はる
 はしとや沈み。今日のらうか。悪日と前刺もあまよけりれ今又おとふ

新編 源氏物語

三十三

北列は海士の小舟の楫を断、警者の杖を失ふ。尚活塔あり。ひと
 のふた浪ぬしよ。おんその二人の子を失ひ。さそ悲し。ておんそんぞいん
 おほし。此身なり。足す。その事。想ひ久。奴家を使。り。のなり。と。お月
 憐。その人。し。中。て。世。よ。おん。其。耐。を。夫。法。とも。に。給。り。て。老。父。慰。め。遠。く。に
 ぞ。し。か。く。ふ。ぬ。し。を。想。ひ。じ。病。多。ひ。そ。と。忠。中。の。言。語。を。和。め。ま。こ。へ。り。
 我子の別小波浪を嘆き。くれば。居。り。し。照。天。が。言。語。を。使。り。の。り。も。ま。こ。
 思ひ。物。と。悪。念。念。の。怒。の。眼。血。を。そ。く。れ。鉄。馬。の。歯。を。か。み。る。し。踊。か。ら。て
 照。天。を。扱。へ。あ。ら。く。し。も。云。り。の。う。ね。お。の。れ。い。ろ。ろ。変。化。せ。て。魔。術。は
 ま。う。け。二。へ。の。子。を。我。も。か。け。て。殺。す。お。れ。尚。ま。こ。あ。を。誑。し。命。生。ん。と
 と。う。や。恨。こ。も。る。我。子。の。仇。す。ろ。暗。き。て。置。ま。ま。お。の。れ。が。又。い。ん。生
 る。く。内。の。憎。み。あ。ら。く。し。も。尚。飽。か。ら。ず。お。り。あ。ら。く。ら。あ。ら。く。経。責。咬
 その正辨と。殺。さ。し。弄。殺。し。て。此。胸。の。恨。の。想。ひ。を。晴。く。ん。お。え。悟。と。せ。よ。と
 い。ま。う。た。つ。磯。の。小。舟。の。全。幫。綱。これ。さ。ら。し。と。あ。る。よ。り。さ。ら。し。る。手
 小。舟。を。綁。り。て。傍。の。松。の。枝。を。撈。り。て。小。松。の。枝。を。楚。し。し。打。弄。す。光。景。を
 終。る。重。く。地。獄。の。罪。人。が。悪。鬼。羅。刹。の。呵。責。ま。れ。苦。難。を。受。ふ。小。異。々。と
 照。天。を。苦。痛。堪。へ。し。う。も。邪。見。の。人。う。ろ。と。も。二。人。の。子。も。と。失。は。り。て
 心。を。和。む。り。の。なる。と。思。ふ。悪。念。亦。悔。む。殺。し。も。中。て。斯。ろ。ろ。の。憂。恥。く。ん
 と。ろ。ろ。の。鬼。う。蛇。う。彼。中。山。の。狼。う。い。情。な。ら。な。浪。や。天。と。仰。ぐ。唾。を。ね。ば。必
 其。身。お。か。れ。と。世。の。澆。よ。と。あ。り。は。く。め。己。が。子。も。と。お。の。が。も。お。殺。せ。し
 正。は。足。主。家。お。仇。を。報。ひ。し。ぞ。し。そ。を。希。へ。と。奴。家。を。り。て。子。の。仇。と
 多。く。罪。を。醸。と。あ。ら。く。と。や。奴。家。未。練。は。命。を。惜。し。逃。れ。ん。と。あ。の。わ。ら。ね。

とも。此。身。お。か。れ。短。め。り。そ。と。果。さ。す。死。を。厭。へ。り。我。志。ま。と。遂。く。の。后。を

才余のさうふ惜くつねにその心のまうにあり。うもとも成るんよ此の時
 の命と助けてよ此こそ聴きし恥せむと殺してたぐとかれは死するけまど
 さうふ回意う空嘯う夜浪が古狸う古狸うかろじふ責めても正非を頭
 さぬこそさけぐし豫人人の云ことあり年経し狐狸の化へはまをま
 ざれば本非をころると誰とまつらふらふと薰んと云はくも松の小枝を
 折らして照天が才近く積かすひ火をさくんとしてりるやう今この松皮
 焚くも幾許の苦痛と做るたふ息をえざるその前よ今非非を
 殺さざや中よくうもと責問へ照天怒りの涙とらへひはさるまにも
 その程あり奴家とりて狐狸うまう云罵るこそ奇怪うの父を名武
 篤光とて清和の帝は未あて常陸國の山城至ら矢の道へ本國よ亦
 を死人としとれける干城うとくはゆませり油を姓も氏もなれは附は筆の身

かういふや奴家世よのね耐うら言ひうらとのふあはれど故我夫の
 乳くうら小男君の籠をうけ万千代九と生り故ゆやく廉墨とらう
 どと助重公のかめてよのなへら一奉なれば今日ゆるりなく環今其の
 虫根を知らざればうらうらと殺ひ一奉こそ今口惜たれ油の油の
 あつていふ彭籠奴ともりあられ殺さ殺せ日月の天おまう中丸のうらふ
 冥討のうで脱走は人其耐をひまうとて言語さるらに云とあら双眼因
 てはのち大義の比名を唱へけえ極極め光景を夜浪とれとらうらつ
 のがまみまう云ははれことぐ一死をうや海清和の後うら我まうこれの
 ね未うら奴狐言語を巧みぬうとともらうとてよう我を欺ははるや
 今こそとひまうせんと積かきうは松葉小松月の大とさうらめせど
 西よ湯さるることならねばよくも焚くを鳥羽玉の黒烟のみならのり

あつていふ

三十三

照天が鏡もさぐりぬる。さへくろくまて葬つゝ煙の裏よりかゝる。げも
 若しと叫ぶ声さる。ほぞ波浪足さらちまてゆらよげよ美つとさ。いづれ
 神通自在なる狐狸る。とて今もゆるも。改好ほある。燂脾胃
 とまて拍て雀踊。つ尚もま。松の小柴を折る。と。只頑き。ま。り
 が後。叫ぶ声もせ。さ。死ける。と。涙の。柴うち消して。松の。り。ま
 照天。ふ。ぬを。えて。の。ふ。こ。その。も。何。よ。松の。木。よ。縛。め。お。き。し。と。姫。る。く。て。い。と
 さ。さ。ゆ。う。な。は。観。音。の。ま。像。も。と。め。り。ま。え。あ。そ。は。し。り。の。波。浪。あ。き。れ。果
 愕然として居。り。し。う。放。逸。を。慙。の。白。知。の。斯。は。奇。特。と。る。と。り。い。と
 芝。徒。の。心。と。弁。記。せ。と。う。う。く。修。行。の。ま。ま。を。惜。し。声。を。あ。る。け。し。齒。歯。と
 る。し。お。の。れ。照。天。の。古。狐。我。ふ。い。う。な。は。仇。め。れ。二。人。の。子。ども。と。失。つ。き。か。く。も
 魔術を施して我と欺。た。惱。と。と。此。観。音。も。正。は。足。婆。化。な。せ。し。小。栗。と。ま。え。ん。
 い。と。や。死。心。を。知。さ。入。と。短。刀。ぬ。ひ。く。と。と。と。切。ぎ。不。思。議。や。仏。の。心。軀。より。
 数。条。の。光。を。放。ら。る。い。瀬。戸。橋。の。方。へ。飛。去。る。い。波。浪。これ。よ。移。る。け。と。怒
 へ。尚。も。い。ま。ま。う。り。腕。と。さ。と。り。て。後。悔。し。我。事。を。覚。く。し。て。脱。し。つ。る。と。
 易。う。糸。彼。よ。う。な。れ。神。通。の。の。り。と。も。う。う。一。念。の。サ。り。う。空。し。く。あ。る。
 を。ま。と。と。花。ま。る。ふ。い。佛。の。跡。を。あ。う。て。追。行。ぬ。今。茲。小。説。話。と。る。ま。松
 の。一。件。を。圓。通。菩。薩。の。利。益。ゆ。て。照。天。姫。の。危。難。を。救。ひ。且。と。波。浪。が。悪
 念。を。持。し。芝。徒。心。を。發。起。さ。せ。ま。ん。と。の。方。便。う。り。が。愚。智。燈。會。の。毒
 婦。却。と。嗔。毒。心。を。募。ら。し。佛。小。仇。を。う。り。ま。る。方。も。又。波。浪。と。れ。且。説
 照。天。姫。の。波。浪。が。あ。お。振。ら。れ。一。樹。の。松。よ。綁。め。ら。れ。ね。と。ま。う。て。お。は。え。し。が。
 そ。の。ち。何。る。の。も。知。く。と。不。思。議。も。免。れ。て。波。浪。と。も。う。か。と。好。く。足。お
 ま。り。して。走。り。し。う。瀬。戸。橋。の。辺。よ。ま。は。る。は。い。ひ。息。も。絶。へ。く。ま。て。お。勞。し。う。

小栗 卷之六

三十七

ちのの岩小腰うちつけ。勢射体ひ居し。小首むけける守本尊の
 いと将舟の舟おぼえたる。はら怪し。肌を守り。知し。小言に。処は居おき。夕
 ゆて。手盥口と。漱き。祝世音の。厨子と。因に。拜し。ち。人。と。と。れ。は。わ。と。け。の
 は。ち。う。う。ひ。び。あ。る。や。と。移。る。く。折。と。め。れ。西。北。の。方。より。して。一。團。の。光。物。忽。然
 として。お。も。り。の。厨。子。の。裏。へ。入。よ。こ。え。へ。う。あ。り。祝。世。音。の。言。は。れ。お。も。り。あ。ら。う。あ。ら。う
 照。天。の。奇。異。の。想。ひ。を。は。し。熟。く。汗。を。ち。り。ふ。は。身。を。ち。り。煙。と。草。を。り。在。と。あ。そ。て
 さ。て。の。奴。家。が。才。替。ふ。ま。せ。ま。ふ。う。あ。り。が。さ。や。と。飲。ま。れ。の。涙。せ。れ。め。を。幾。許
 回。う。れ。拜。し。佛。因。の。行。を。感。謝。せ。り。さ。て。そ。の。后。に。行。末。の。ゆ。り。も。を。慇。懃。ふ
 頼。み。を。ま。て。扱。く。事。り。し。松。枝。の。杖。を。傍。に。突。て。て。大。意。の。悲。願。空。う。ら。ん。に
 を。夫。婦。再。會。し。て。飯。を。横。山。を。付。さ。し。ま。宿。志。を。遂。る。や。と。う。ら。ん。ふ。う。と。う。と。を
 と。れ。松。の。杖。は。常。盤。の。翠。と。ん。せ。ま。入。と。深。く。祈。念。し。首。の。和。奇。と。派。を。る。

折きひて。山の。ちの。ちの。の。常盤。な。は。松。は。千。年。れ。ま。と。は。う。せ。て。
 と。口。早。う。祝。音。菩薩。の。言。は。れ。と。再。び。首。か。け。ま。ぬ。と。せ。父。の。本。國。な。ら。ん。が。一。よ。う
 常。陸。へ。赴。ひ。し。昔。の。好。才。と。尋。人。と。和。を。ま。ま。う。め。瀬。戸。橋。を。う。ち。渡。ら。ん。と。と。れ
 処。は。お。ひ。が。け。お。く。後。背。より。声。を。も。か。け。と。波。浪。が。手。と。ま。し。の。ぼ。て。襟。え。衣。
 志。う。と。扱。く。し。倒。し。か。を。れ。照。天。の。古。瓶。一。回。う。ら。ん。に。幾。許。回。う。ら。ん。を。欺。く。奇。怪
 さ。う。這。回。と。ほ。こ。も。脱。は。じ。と。氷。の。と。れ。短。刀。と。胸。の。ほ。と。り。お。お。し。め。て。既。小
 刺。んと。と。り。り。け。て。照。天。姫。と。今。の。ま。や。脱。は。ぬ。時。と。ま。悟。し。心。理。中。念。と。は
 中。に。も。死。ま。さ。ぬ。命。う。ら。ん。ふ。か。く。恥。え。ん。より。入。水。し。て。も。自。害。せ。ら
 その。身。を。取。う。め。と。こ。ら。本。文。も。か。あ。ひ。や。ま。は。南。無。や。祝。音。大。菩。薩
 今。世。と。福。な。く。あ。り。と。も。未。来。へ。助。け。あ。ま。う。れ。と。祈。ね。ま。と。ま。し。と。波。浪。が
 ち。き。入。腕。を。う。り。と。あ。ち。身。を。繋。く。し。と。瀬。戸。橋。の。上。より。川。へ。飛。ち。み。り。

西ノ巻ノ六

三十五

かた折つら一艘の小舟に漕ひくまふりしが恰好姫とらの舟に艦乃
 方へぞ落ゆまふり照天と高丸とを落より落るるをよむ同くはめき
 舟とさ入りて打つは氣も消くあらも失せり其年々息を絶く
 ちり時よ名のうちよして二人の漢子あられ出照天姫がま抱き
 ぬきひ名の裡ゆ入るが船歌うき船長と船をまきまきまのふ
 けと藤浪とさびとけりともおのひの外ゆり逃し念ひやまじ
 りきまふれと漕りく舟の跡を追ひ走せんととれとろく不図も
 夫の小助間かくもて行遭りありと我妻と捉ゆとつたのあ家夫
 妨げせそかさるる仇の照天の姫に脱しつるの時うらみを暗と
 ことあらん其所をねと縁と才と聞けを小舟と使と俄然とさくふ
 姫君とろくとも此心は呻吟事と多ひうその何方ぞと懸望らち
 波浪を舟くまふりゆけて逐ゆくと身を逃さざとさつて押く足下



ぬま今と何をうはまらんや我々各武の譜代の臣美登の小助とつた
 のなり照天姫と家主なりその法去向をうづねんと斯やとく舟を
 我らりと知るぬ事とい云ながら主君が仇とりふ女と我妻とふなり
 かに夫婦の縁を断ともろく姫君を仇とせり波浪はより歯切を
 ぬも照天れ方人うらまはすて仮も我妻と云はるるこそ無念なり
 つららと小栗波重の寵妾なれ波浪も照天の後子の妻なりさえ
 幻術をりく二人の子がうらまはす怨のあり妖魔の女生あらんや波
 浪は夫とるが斯こそそれと短刀を逆手おりて突かくまは少助
 あらやと身をかえしその身を投る短刀取よりを争く波浪が心下
 ぐさ刺とさうねく叫ぶ声りねとも川へざんぬと投りてを姫とさ

小栗判官

三十一

とまふ。のちとて走ゆきん。嗚呼この毒婦友浪道理。疎く
くは竹舟の跡を慕ふて走ゆきん。嗚呼この毒婦友浪道理。疎く
佛の方便を解と大逆を慕ら。夫の為は非命に死。遂に不奈の鬼と
なるは。足渾くが作業の報なり。禍福無門惟人所召といふ夫定木
こころを云くはる。

小栗外傳卷之六終

繡像復讐言山石見英雄録

全部 五十冊

南海 五藤主人 編輯

浪花 一葉斎 秋川芳梅 画

○初編 系師八作 七冊 玉藻主人詞書 三編 東陽子副著 第四輯以下作者一家
永祿元正の頃筑前名嶋の勇士岩見重太郎橋本季が生さあり武者修初
世一冊の武功大蛇の害を涂き老狸の妖を殺せし勇威を始り後天の橋本より
廣成成徳八川小三人の大敵を討てて鬼の怨恨を晴し終小室町殿小奉仕仕官長
給し其の五條に能くも勇力上の別傳靈様悪魚の怪談小五輯より八益入佳境新話あり

前文寶寺町心齋橋小工入

浪花書肆

前川善兵衛藏

